

第22回（平成30年度第2回）  
セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会

《会 議 次 第》

日時:平成31年3月26日(火) 15:00~16:00

場所:久留米市保健所 待合室兼会議室

1. 開 会

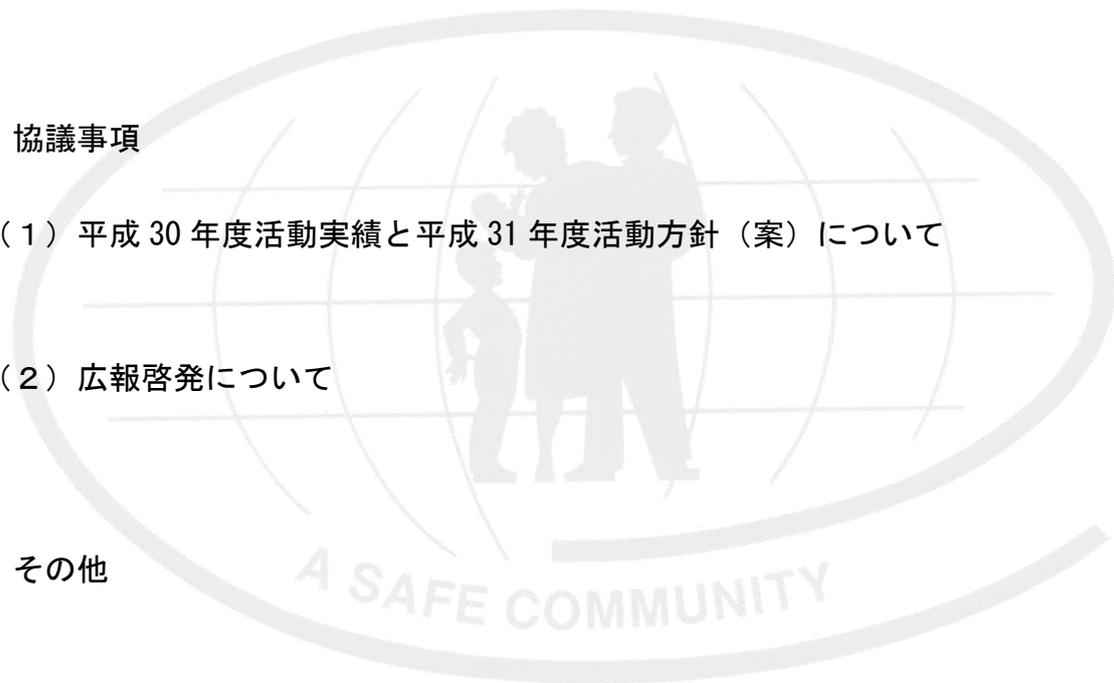
2. 協議事項

(1) 平成30年度活動実績と平成31年度活動方針（案）について

(2) 広報啓発について

3. その他

4. 閉 会



自殺予防対策委員会

【自殺・うつ病の予防】7-① ゲートキーパーの養成							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い世代の中で、死亡原因の1位は「自殺」である</li> <li>自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、約70%が男性である</li> </ul>					
	主観的課題	働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある					
目標	市民一人ひとりの気づきと見守りを促す						
内容	身近な人の「うつ」等のサインに気づき、適切な対応を図ることができるゲートキーパーの役割を担う人材を養成する。あらゆる機会を捉え市民の身近な場所に出向き出前講座などを通して、ゲートキーパーの啓発を図る。						
対象者	市民、民生委員、理容師、薬剤師、介護福祉サービス事業者など						
実施者	市						
対策委員会の関わり	対策委員の提案や意見をもとに、自殺対策の窓口一覧をまとめた啓発冊子を作成し、出前講座等により配布している。						
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <p>啓発回数 63回 啓発人数 2,111人 (H31.2月末現在)</p> <p>(主な啓発先)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員 31回 636人</li> <li>校区等 9回 212人</li> <li>理容組合 2回 30人</li> <li>職域 2回 54人</li> <li>職員 2回 157人</li> <li>その他出前講座 13回 395人</li> <li>講演会 2回 270人</li> <li>かかりつけ医 2回 357人</li> </ul> <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民向け講演会では、子どもの心の健康に関する内容を取り上げて実施した。また、中学生を対象に「SOSの出し方教育」の取組みを開始し、今後、広げていく方針である。</li> <li>市内大型百貨店従業員や図書館職員等への研修を実施した。</li> <li>校区でのゲートキーパー研修は、2018年度で市内全小学校区を網羅した。</li> </ul>						
2019年度の方針及び課題等	より一層の対象者拡大を図るとともに、地域への啓発を継続的に行うことにより、ゲートキーパーを浸透させていく。						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	ゲートキーパー啓発回数、人数	回	149	66	67	46	63
		人	5,290	3,527	2,294	2,336	2,111
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「ゲートキーパーについて理解できた」と回答した人の割合	%	2017より実施			87.7%	集計中
【中期】態度・行動	市民からのうつ・自殺に関する相談件数 [精神保健相談]	件	145	155	154	131	集計中
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—
		件	25	41	32	28	—

## 【自殺・うつ病の予防】7-② かかりつけ医と精神科医の連携強化

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺者数は減少傾向ではあるが、依然として多く、約70%が男性である</li> <li>自殺既遂者は、精神科既往歴の割合が低い</li> </ul>						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>うつや自殺に対する不安を感じる人が少ない</li> <li>働き盛りの男性が、悩みを相談できずに自殺に至る傾向がある</li> </ul>						
目標	適切な医療を受けられる体制づくり							
内容	内科等のかかりつけ医と精神科医が連携を強化することにより、うつ病の早期発見、早期治療のみならず医療連携体制の整備及び地域支援ネットワークの構築を図る。							
対象者	内科等のかかりつけ医、精神科医、産業医など							
実施者	医師会、市							
対策委員会の関わり	かかりつけ医・精神科医連携研修検討会委員にはセーフコミュニティ対策委員会メンバーも入っており、積極的な意見や提案がなされている。							
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会 2回（筑後地区一円の8医師会共催）</li> <li>第1回 195人 （内容）子どものうつ・発達障害と虐待についての講演、周産期から子育て世代の切れ目のない支援について、産科医・小児科医・行政からの視点でパネルディスカッション</li> <li>第2回 162人 （内容）アルコールの連携システムの講演、産褥期のうつをテーマにしたロールプレイ</li> <li>参加者アンケートでは、「研修前と比べて理解が深まったか」との項目に対して、「とても」「まあまあ」と回答した人が、95%以上であり、研修会の満足度は高かった。</li> <li>かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態を継続して把握している。 （久留米方式として全国的に認知されている）</li> </ul> <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師のみならず行政機関や養護教諭へも参加案内を行い、参加者数は過去最多となった。</li> </ul>							
2019年度の方針及び課題等	かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続実施を行う。研修会の開催にあたっては、医師会事業との連携を行いながら、更なる連携を図っていく。							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	かかりつけ医うつ病アプローチ研修の開催回数、受講者数	回	2	2	2	2	2	
		人	191	264	307	260	357	
【短期】認識・知識	参加者の意識変化[参加者アンケート] 「本日の研修会におけるテーマについて、研修前と比べて理解が深まりましたか。」	%	2017より実施				93.3	96
【中期】態度・行動	①うつ病を疑い精神科医に紹介した件数	件	1146	1279	1257	1363	集計中	
	②うつ病と診断された人の人数と割合	人	456	473	475	395	集計中	
	[うつ病アプローチ研修集計]	%	39.8	37.0	37.8	28.9	集計中	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—	
	②自損行為による救急出動数と死亡数[救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—	
		件	25	41	32	28	—	

### 【自殺・うつ病の予防】7-③ 自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い世代の中で、死亡原因の1位は「自殺」である</li> <li>・自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている</li> </ul>						
	主観的課題	働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る						
目標	社会的な取り組みで自殺を防ぐ							
内容	自殺対策の推進を図るため、現状と各団体の取り組みについて情報を共有する。29年度より、自殺対策に関する啓発活動に協働で取り組む。							
対象者	一般市民							
実施者	自殺対策連絡協議会委員及びセーフコミュニティ自殺予防対策委員、市							
対策委員会の関わり	自殺対策連絡協議会にはセーフコミュニティ対策委員会メンバーも入っており、積極的な意見や提案により、他の団体の意識も向上している							
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺対策連絡協議会 1回開催 40団体出席 参加者の協議会前後の意識変化として、75%が自殺対策についての理解がとて深まったとアンケートに回答していた。</li> <li>・キャンペーン等で、関係団体と協働した啓発活動 自殺対策連絡協議会、セーフコミュニティ自殺予防対策委員会等、関係団体と協働し、9月（自殺予防週間）、3月（自殺対策強化月間）街頭キャンペーン等での啓発活動や、啓発物の掲示・配布を実施した。</li> </ul> <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内書店で、啓発しおりとポスターを配布し、啓発活動を実施。</li> <li>・職域におけるメンタルヘルス対策について、適正飲酒啓発チラシを作成し、関係機関に配布を行った。</li> <li>・絆づくり補助金活用団体に対しても、普及啓発活動参加の依頼を行った。</li> </ul>							
2019年度の方針及び課題等	自殺予防週間や自殺対策強化月間などの機会を捉えて、各団体や委員と連携し、普及啓発活動に取り組む。また、関係団体と協力し、啓発ツールの作成や活用を進める。							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	啓発協力団体数、配布箇所、配布部数	団体	2017より実施				59	59
		箇所	2017より実施				59	59
		部	2017より実施				179	2,309
【短期】認識・知識	協議会参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施				40.4	75
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	145	155	154	131	集計中	
		関係機関	50	56	29	46	集計中	
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—	
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—	
		件	25	41	32	28	—	

【自殺・うつ病の予防】7-④ 民間団体と協働した相談の実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い世代の中で、死亡原因の1位は「自殺」である</li> <li>自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っている</li> </ul>					
	主観的課題	働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至る					
目標	民間団体との連携を強化する取り組み						
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハローワーク相談会 勤務問題や経済生活問題を抱える方が訪れる場所の一つであるハローワークにおいて、自殺の要因となりうる、借金、多重債務、損害賠償などの社会問題や、それらの問題から発生する心の問題に対応するため、司法書士・保健師等による相談会を実施する。</li> <li>こころの相談カフェ 悩みを抱え込む前に気楽に相談できるよう、市民に身近な場所で、臨床心理士等のカウンセラーによる対面相談を実施する。 (2016年8月～岩田屋久留米店にて開設、2017年4月～久留米市立中央図書館にて増設)</li> </ul>						
対象者	一般市民						
実施者	民間団体、市						
対策委員会の関わり	相談の開催などの広報周知						
2018年度の実績及び改善した点等	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハローワーク相談会 全4回実施 計14件(14人) (内訳) 8月:2件、10月:5件、1月:5件、3月:2件</li> <li>こころの相談カフェの開催 全62回 134件(162人) (2019年2月末時点) (内訳) 岩田屋久留米店 : 毎週火曜日(47回) 久留米市立中央図書館: 毎月第3日曜日13時から16時、 奇数月の第3火曜日17時から19時30分(15回)</li> </ul> <p>[改善した点等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「こころの相談カフェ」について、図書館での相談のニーズが高く、2018年度には、日曜実施分を隔月から毎月へ拡充し、相談を受け付けている。</li> </ul>						
2019年度の方針及び課題等	<p>(ハローワーク相談会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に自殺者の多い30～50代の働き盛り世代や無職者層を中心とした相談会を継続する。より相談しやすいよう、開催時期を変更する。</li> </ul> <p>(こころの相談カフェ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男性の利用者が減少傾向にあるため、平日夜間の相談時間を見直すとともに、チラシの内容や設置場所等の啓発方法を工夫する。2019年度も引き続き、相談窓口を継続する。</li> </ul>						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	①ハローワーク相談会及びこころの相談カフェ等の開催回数	回	4	4	4 34	4 61	4 62
		人	22	24	22 125	19 217	14 162 (H31.2)
【短期】認識・知識	参加者の意識の変化 [参加者アンケート]	%	2017より実施			76.5	集計中
【中期】態度・行動	相談者及び関係機関からつながった機関数及び相談件数[精神保健相談]	相談者	145	155	154	131	集計中
		関係機関	50	56	29	46	集計中
【長期】状況	①自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—
	②自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—
		件	25	41	32	28	—

**【自殺・うつ病の予防】 7-⑤ 生活困窮者からの相談支援**

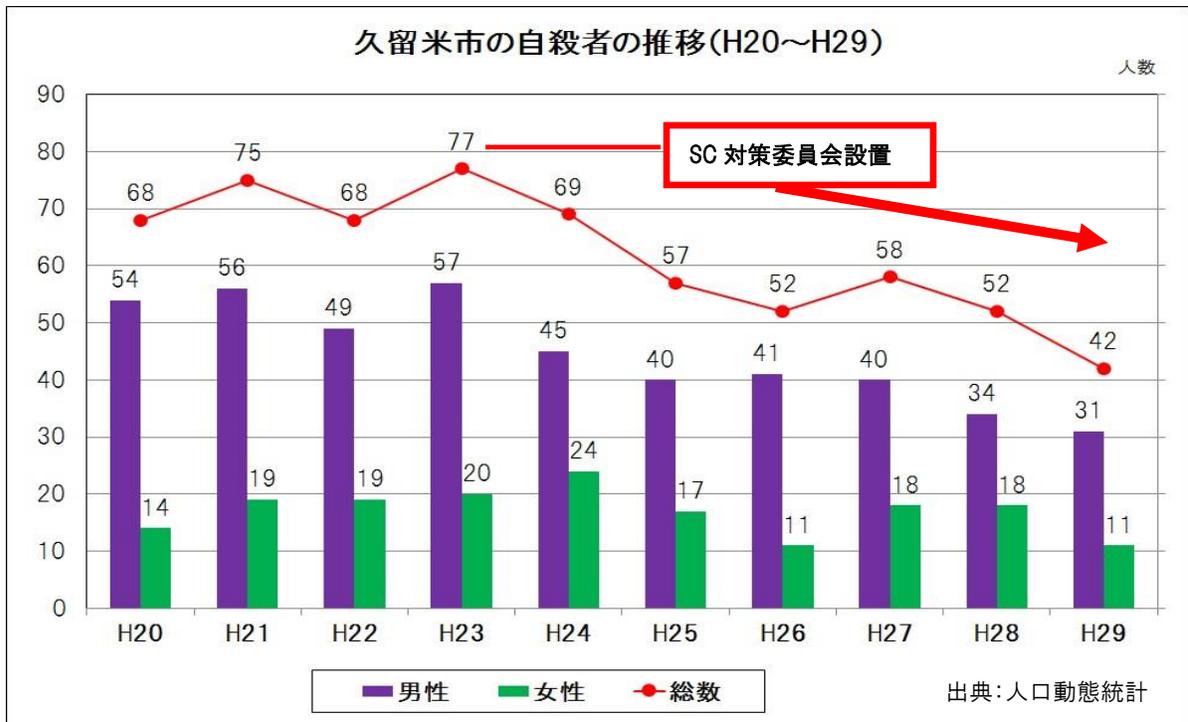
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺の要因となる経済的な問題や家庭の悩み、精神的な病気などを抱えている相談者が多い</li> <li>相談者の中には、過去自殺未遂歴をもつ者やこれまでに自殺企図、希死念慮をもつ相談者もあり、自殺企図・希死念慮を課題にもつ相談者アセスメント上の分類では3%程度であるが、相談する中で「死にたい程に苦しい」等の言動まで含むとさらに増える</li> </ul>						
	主観的課題	自己肯定感が低い人、社会的に孤立している人も非常に多い						
目標	相談のつなぎ元となる入口や、また多様な出口の支援のために連携先を増やす							
内容	生活に困りごとを抱えている相談者に伴走しながら支援を行い、困りごとのひとつひとつを解決に向けてともに相談していく。またつなげる連携先・制度等があれば伴走しながら、しかるべき支援につないでいく。							
対象者	生活に困りごとを抱えている一般市民							
実施者	久留米市生活自立支援センター（担当課：生活支援第2課）							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布</li> <li>高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携</li> <li>ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携</li> <li>自殺予防対策委員会にて、生活自立支援センターの相談状況を報告、評価検討している。</li> </ul>							
2018年度の実績及び改善した点等	<p>新規相談受付件数 820 件/年（2019年1月末現在）                  関係機関等から繋がった機関数・・・集計中                  自立相談支援事業における支援計画策定数 540 件/年（2019年1月末現在）                  支援終結件数 173 件/年（2019年1月末現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度については未集計だが、2017年度における新規相談受付件数 887 件は、人口 10 万人あたりの件数では、全国の 115 都道府県・政令市・中核市で第 9 位となっており、久留米市の相談支援は全国的にも高い水準で実施している。</li> <li>2018年度もこれまでと同様、相談者のアセスメントをする中でプランを作成し、必要に応じて連携先（各支援窓口、医療機関、就労支援先等）に同行するなど相談者に寄り添った、伴走型の困りごと支援を行った。アセスメントをする中で、自己肯定感の低さから自殺企図をもつ相談者もいたため、適宜保健所をはじめとした関係機関と協働しながら相談者の支援にあたり、相談者の環境改善を図った。</li> </ul>							
2019年度の方針及び課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布</li> <li>高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門との相互連携</li> <li>ハローワーク他の就労支援機関等との相互連携</li> <li>必要に応じた関係機関（各支援窓口、医療機関、就労支援等）との相互連携</li> </ul>							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	新規相談受付件数	件	—	668	845	887	820 (H31.1)	
【短期】認識・知識	関係機関等から繋がった機関数 [支援入りロデータ]	機関	—	庁内 23 庁外 17	庁内 27 庁外 15	庁内 27 庁外 21	—	
【中期】態度・行動	自立相談支援事業における支援計画策定数及び支援終結件数[支援プランデータ]	計画	—	177	475	513	540 (H31.1)	
		件	—	55	141	190	173 (H31.1)	
【長期】状況	自殺者数[人口動態統計]	人	52	58	52	42	—	
	自損行為による救急出動数と死亡数 [救急搬送データ]	件	102	125	116	107	—	
		件	25	41	32	28	—	



# 自殺予防対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
自殺・うつ病の予防	7-①	ゲートキーパー研修
	7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化
	7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施
	7-④	民間団体と協働した相談の実施
	7-⑤	生活困窮者からの相談支援

## ア. 成果〈数値で表せるもの〉



## イ. 成果〈数値で表せないもの〉

### ゲートキーパー啓発活動の広がり

- ・地域におけるゲートキーパーの認識が深まった。  
市民団体等の活動も継続し、自主的な活動が行なわれている。

### かかりつけ医・精神科医の顔の見える関係づくりとネットワークの強化

- ・「かかりつけ医と精神科医の連携システム（久留米方式）」として、認知が広がっている。

### 関係団体との連携強化

- ・関係団体と連携した啓発活動等を行った。

### 相談体制の充実

- ・より市民が相談窓口を利用しやすいよう、相談を受け付ける日を増やした。

## ウ. 2018年度の取り組みで最も成功した事例

### 関係機関と連携した啓発活動

- ・対策委員会での意見を基に作成したしおりとポスターを、市内書店にて、配布・啓発を行った。
- ・「自殺予防週間」「自殺対策強化月間」キャンペーンの際には、自殺予防対策委員会及び自殺対策連絡協議会構成団体と協働した啓発活動を行った。

### 相談窓口の増設による相談体制の充実

- ・「こころの相談カフェ」では、市立図書館での相談日を増やし、より多くの相談を受け付けた。



## エ. 2018年度で最も積極的に取り組んだ活動

### ゲートキーパーの研修・啓発

- ・関係団体等の協力のもと、ゲートキーパー研修を実施。「こころの相談カフェ」開催場所である、百貨店、市立図書館でも開催した。また、ゲートキーパー研修を市内全小学校区で網羅した。

### 関係機関等と連携した啓発活動

- ・市内書店で、啓発しおりとポスターを配布し啓発を行った。
- ・「自殺予防週間」「自殺対策強化月間」キャンペーンの際に、関係団体と協働して啓発活動を実施。
- ・職域におけるメンタルヘルス対策に関して、適正飲酒啓発チラシを作成。関係機関に配布し、アルコール問題を切り口にした啓発を行った。

## オ. 分野横断的に行っていること

### 関係機関等と連携した活動

- ・司法書士会やハローワークと連携した相談会、民間団体へ相談窓口の委託。
- ・生活自立支援センター相談窓口での、様々な関係機関と連携した対応。
- ・関係機関と連携した啓発活動、ゲートキーパー研修等の実施。

## カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

### 中高年男性への取組

- ・中高年男性が相談しやすい体制や、職域団体等と連携し、職場におけるメンタルヘルス対策の取組みを進める必要がある。

### ゲートキーパーの浸透

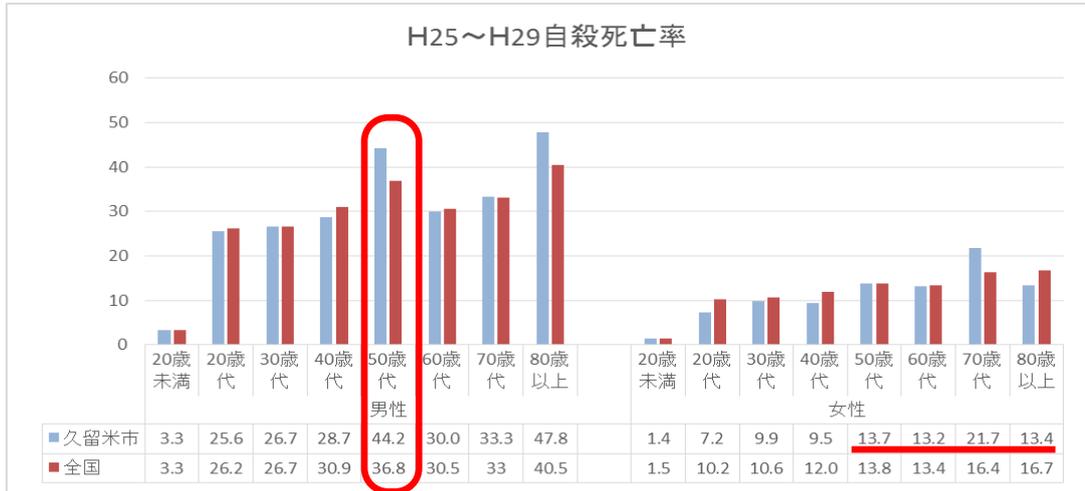
- ・正しい知識を持つ市民の増加、ゲートキーパーの認知度上昇。

### 支援体制の充実

- ・適切な医療や支援を受けられる体制の整備。
- ・地域の相談体制の更なる充実。
- ・関係機関相互の連携した相談支援。

**事業名**：こころの相談カフェ

**地域における自殺対策の課題**: 保健所における相談では、精神症状が顕在化した中重度以上の相談が多いため、悩みを抱えた方がより早期の段階で相談できる場を増やし対応していくことが必要である。特に当市の自殺死亡率を性別年代別にみると、男性では 50 歳代、女性では 50 歳代以上が高く、この年代は、不安や悩み等相談することのためらいを感じる割合が 5 割を超えていることから、この年代が早期に相談できる場を増やし、対策を強化する必要がある。



《不安や悩み、ストレスを相談することへのためらい》



**事業目的・内容**：社会で孤立し生き辛さを抱える市民は、当事者だけで悩みを抱え込み保健所等の公的機関にたどりつかず、問題が深刻化しがちである。そこで、より身近な場所（百貨店内及び市立図書館内）で臨床心理士等の専門のカウンセラーによる面談を受けることができる場を設置し、より早期に、抱える悩みや精神的負担の緩和を図る。

- ・開設回数 68回（平日午後 51回、日曜午後 11回、平日夜間 6回）
- ・各回最大 3名

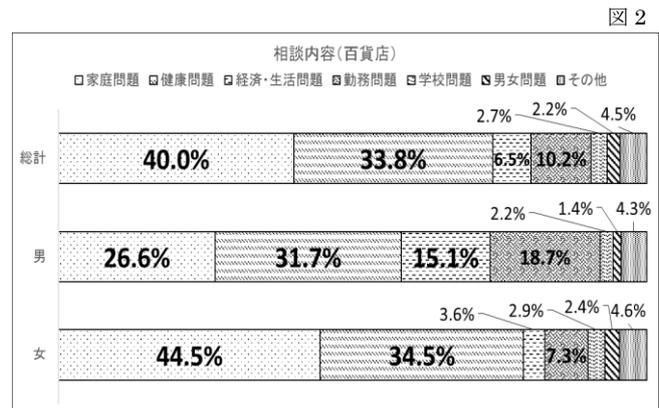
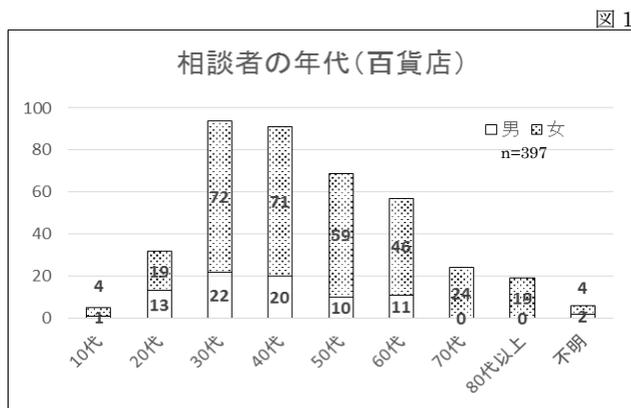
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
場所 日時	百貨店 週1回 平日 13:00~16:00	→	
	図書館 隔月1回 平日 17:00~19:30	→	
事業拡大の流れ	「保健所への相談は数居が高い」との声を受け、身近な相談窓口として開設	自殺対策連絡協議会で「男性が相談しやすい場所の検討を行ってほしい」との声があり増設	図書館でのカフェのニーズが高く、日曜実施分を隔月から毎月へ拡充

**事業効果**：市民に身近な場所でより早期に専門のカウンセラーによる相談を受けることで、抱える悩みや精神的負担の緩和を図り、メンタルヘルスの向上や孤立予防が期待できる。特に、対策を強化する必要がある 50 歳代男性をターゲットに市立図書館、50 歳以上の女性をターゲットに百貨店を相談場所に設定し、気軽に相談できる場を提供することで、相談者の悩みや精神的な負担を緩和することができる。

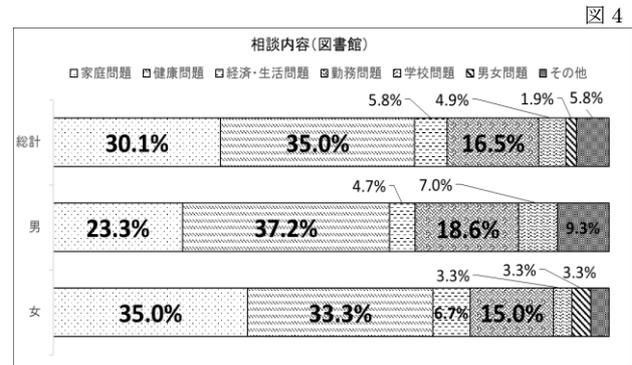
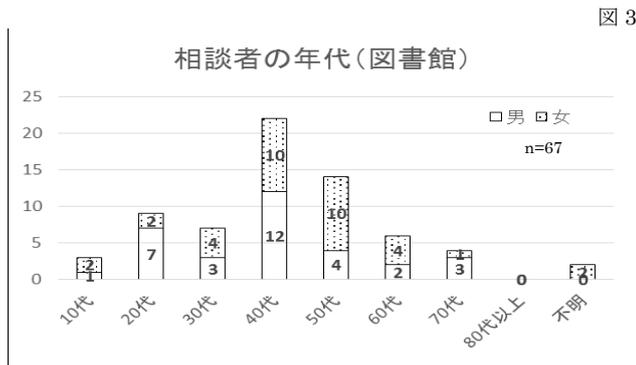
**達成目標**：50 歳代男性及び 50 歳代女性の自殺死亡率（H26～H30 合計）を減少（H25～29 合計比）、及び全国の自殺死亡率（同年代の H26～H30 合計）と比較し、同等または低くする。

**実績**：

- 1) 百貨店での相談状況（平成 28 年年 8 月～平成 31 年年 1 月）（図 1・2）
  - a) 開催回数 128 回
  - b) 相談件数 予約件数 563 件  
相談件数 397 件 ※1 回平均 3.1 件
  - c) 性別・年代 男性 79 人（19.9%）、女性 318 人（80.1%）  
30～50 歳代の女性が 49.5%を占めている。
  - d) 相談内容 ①家庭問題 220 件（40.0%）②健康問題 186 件（33.8%）③勤務問題 56 件（10.2%）④経済・生活問題 36 件（6.5%）  
女性と比較して男性の勤務問題、経済・生活問題の割合が高い。
  - e) 連携先 71 件（市保健所 46 件、行政 4 件、医療機関 14 件、就労機関 1 件、その他 6 件）

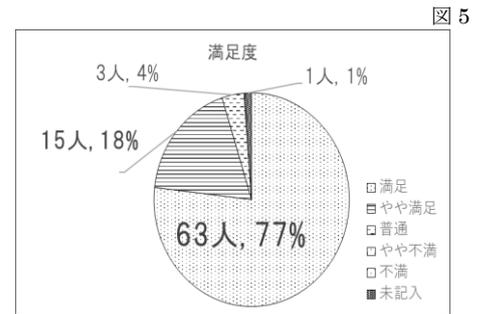


- 2) 図書館での相談状況（平成 29 年年 6 月～平成 31 年年 1 月）（図 3・4）
  - a) 開催回数 26 回
  - b) 相談件数 予約件数 94 件  
相談件数 67 件 ※1 回平均 2.6 件
  - c) 性別・年代 男性 32 人（47.8%）、女性 35 人（52.2%）。40 代～50 代の男女が 53.7%を占めている。40 代男性が 17.9%で最多。
  - d) 相談内容 ①健康問題 36 件（35.0%）②家庭問題 31 件（30.1%）、③勤務問題 17 件（16.5%）、④経済・生活問題 6 件（5.8%）。百貨店に比べ、女性の勤務問題の割合が高い。
  - e) 連携先 10 件（市保健所 4 件、医療機関 4 件、その他 2 件）



3) 相談者へのアンケート (平成28年4月～平成31年1月末)  
 対象95人(相談初回利用者)、回答数87人(回収率91.6%)、  
 男性18人、女性69人

- a) 満足度 「満足」「やや満足」83人(95.4%)、  
 「普通」「未記入」4人(4.6%) (図5)
- b) きっかけ 「ホームページ」33人(37.5%)、「チラシ」23人(26.1%)、  
 「店頭」8人(9.2%)、「市広報紙」4人(4.6%)、「その他」17人(19.5%)。
- c) 希望開催日時 「平日の午後」44人(36.4%)、「平日の午前」「土日の午後」がそれぞれ19人(15.7%)、  
 「土日の午前」14人(11.6%)。女性は、「平日の午前」「平日の午後」が55人(79.7%)、  
 男性は、「土日の午前」「土日の午後」「平日の夜」が14人(77.8%)。



**評価・課題**：百貨店においては、女性が相談者の80%を占めていた。中でも、30～40歳代の子育て世代が多くを占めていた。50歳以上の女性は全体の37%を占めており、保健所での同年代女性の相談の占める割合17%と比較すると、百貨店という場所柄、対象女性の方が利用しやすかったと考えられる。

図書館においては、相談者の男女割合は、ほぼ同じであるが、50歳男性を含む中高年男性(40～50歳代)が男性相談者の50%を占めていた。百貨店と比べると、ターゲットとしていた中高年男性を含む男性が利用しやすい場所であったと推察される。一方、平日夜間に相談窓口を開設しているものの、「仕事が終わらず間に合わない。」という理由でキャンセルとなるケースが散見されることから、仕事帰りに利用するには時間帯が早い可能性も考えられた。今後、男性が利用しやすい事業となるよう、平日夜間や休日の相談窓口開設について、さらに検討していく必要がある。また、図書館開設当初は男性の相談者が増加していたが、現在は減少傾向にあることから、男性の目にとまりやすい場所へのチラシ設置や内容の工夫が必要である。

# 自殺予防対策委員会

具体的施策		2019 年度取り組み方針
7-①	ゲートキーパー研修	<p><u>ゲートキーパー研修対象者の拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より一層の対象者拡大を図るとともに、地域への啓発を継続的に行うことにより、ゲートキーパーを浸透させていく。</li> </ul>
7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	<p><u>医療機関と連携したうつ病患者等の実態把握</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医から精神科医へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続実施を行う。</li> <li>・研修会の開催にあたっては、医師会事業との連携を行いながら、更なる連携を図っていく。</li> </ul>
7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	<p><u>各団体と連携した普及啓発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自殺予防週間」「自殺対策強化月間」キャンペーン等、関係団体と協働して啓発活動を行う。</li> <li>・職域向けのメンタルヘルス対策チラシ（長時間労働）を作成し、関係団体に配布・啓発を行う。</li> <li>・高齢者向けの相談・啓発カードを作成し、民生委員のツールとして活用をすすめる。</li> </ul>
7-④	民間団体と協働した相談の実施	<p><u>ハローワーク相談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、自殺者の多い30～50代の働き盛り世代や無職者層を中心とした相談会を継続する。より相談しやすいよう、開催時期を変更する。</li> </ul> <p><u>こころの相談カフェ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに久留米市民活動サポートセンターみんくるを会場として、相談窓口を実施。働き盛り世代の相談者がより利用しやすいように、相談時間を変更する。また、中央図書館での相談窓口は前年度同様に継続する。</li> </ul>
7-⑤	生活困窮者からの相談支援	<p><u>関係機関と連携した相談支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久留米市庁舎内外に案内リーフレット配布する。</li> <li>・高齢（地域包括支援センター）部門、障害部門と相互連携する。</li> <li>・ハローワーク他の就労支援機関等と相互連携する。</li> <li>・必要に応じた関係機関（各支援窓口、医療機関、就労支援等）と相互連携する。</li> </ul>

# 広報啓発について

## ① 平成29年度広報啓発活動の実績

- セーフコミュニティ標語の募集（798作品の応募）
- セーフコミュニティフェスタの開催（台風接近のため中止）
- 広報くるめの掲載（計6回）
- 出前講座の開催（2回計50名）
- 毎月21日重点取り組みの推進
  - ・子どもの見守り活動、児童による朝の校内放送
  - ・田主丸有線放送、庁内放送、のぼり旗の設置
  - ・防災ラジオ自動起動放送
  - ・全校区防災情報伝達訓練（6月／12月）
  - ・青パトによる合同パトロールの実施（7月／12月／3月）
  - ・SC通信の発行（1,000名送信）
- セーフコミュニティオリジナル「くるっぱ反射材」の配付
- ロールスクリーンの設置
- キラリ補助金活用団体への周知と毎月21日の活動依頼
- JR久留米駅ほとめき広場でのパネル展示
- 他自治体（議会）からの行政視察対応（9回計45名）
- ドリームスFM「ほとめき街道ちっこ」への出演
- 日めくりカレンダーの配付（1,000部）
  - ・市役所全課／小中学校／学童保育所／警察署（交番）／久留米広域消防本部（消防署）
- ゲートキーパー啓発しおりの作成（SC実態調査結果を受けて）



（久留米市交通安全協会作成）  
SCロゴ入りのランドセルカバー



（大善寺まちづくり振興会・交通安全協会大善事支部作成）  
SCロゴ入りチラシ

## ② 平成30年度広報啓発活動の方針

- セーフコミュニティ標語の募集（5月21日～8月31日）
- 広報くるめへの関連記事掲載（再認証に向けてこれまでの取り組み成果を紹介）
- 出前講座の実施（対象者の年齢に応じて内容を見直す）
- チラシ・パンフレットの作成
- 日めくりカレンダーの配付（企業や医療機関など配布先の新規開拓）
- セーフコミュニティフェスタの開催（12月8日）
- 地域・関係団体・企業と連携した啓発物の作成・配付



（自殺予防対策委員会作成）  
ゲートキーパー啓発しおり



相談窓口一覧を掲載した日めくりカレンダー

## 【セーフコミュニティ】年間スケジュール

業 務	H30			H31										備考			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月	
SC推進協議会					←調整会議→	←本部会議→	←協議会→					任期満了 11/8					
SC対策委員会	1/25 ● 事務局会議	←対策委員会→					任期満了 7/31	←対策委員会(2回程度開催)→									
外傷等動向 調査委員会		←外傷委員会→						←外傷委員会(2回程度開催)→									
SCフェスタ								←SCフェスタ→									

### 国際認証第2期(2019～2023)の主な予定

- |           |  |
|-----------|--|
| 2019(H31) | ◎今後5年間の基本的な方針の決定<br>◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の概要検討と整理         |
| 2020(H32) | ◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の決定と実施、集計・分析                         |
| 2021(H33) | ◎取り組みの骨格の検証と見直し<br>●重点取り組み分野と項目の見直し<br>●国際認証の再々取得の意思決定 |
| 2022(H34) | ◎国際認証の再々取得のための事前指導                                     |
| 2023(H35) | ◎国際認証の再々取得のための現地審査                                     |